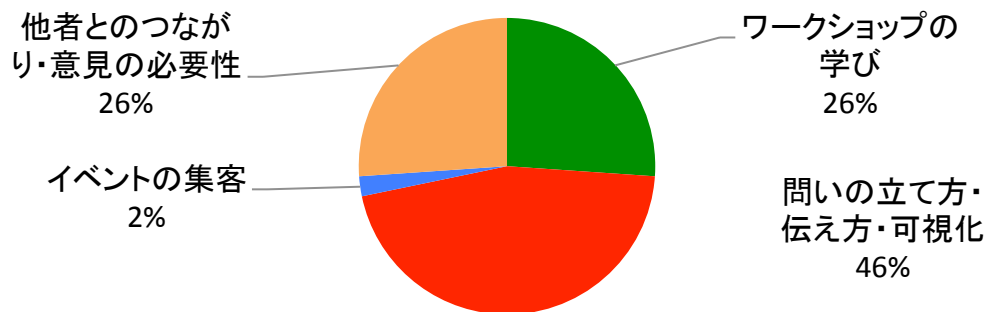


**Q. 本日の講座の気づきを思い出すと、講座を受ける前と後で、あなたにはどんな変化がありましたか？**

公開講座を終え、シートにご回答くださった参加者の「気づき」をざっくりと分類したグラフ。  
多様な意見が大切という気づきや、こうやってみようかな？というアクションまで様々な声がありました。

### 気づき



### ワークショップの学び

ワークショップへの意識の変化、試しにやってみようと思われた方も。

WSの定義、性質が分かり問いを組み立てやすくなった。

ワークショップについての話を通し、“問い”を立てることで、自分の興味関心の偏りに気づきました。「“問い”を立てる＝固定概念にとらわれているかも」と聞いてから自分を疑うことが出来ました。

ワークショップを開催する時、非常に苦痛だったのですが、問いをしっかり設定することでワークショップの中身がこんなにかわるのかぁ！！と知れて、実際やってみたいと思います。

ファシリテーターと呼ばれる層の地位を向上しようとしているコトの認識。

場作りは事前準備がまず大事で、さらに場を見ながら柔軟に変えていくことが大事なんだと思います。

ワークショップって専門的な人がやるものと考えていました。安齋先生のお話を聞いてやってみようと思いました。

先生の講義でコミュニティでの自分の立ち位置が良くわかりました。

いろんな視点で物事を見ている！という自信あったんですが、講座を受けて、自分はまだまだ、やった気になってただけだと思った。

ワークショップってこういう感じなんだと、ほんの少しながら理解できた。

「ワークショップ」をなぜ行うのか、の明確な考え方から導かれる「実践」ということを本気で考える必要性、必然性が理解できかけていると思います。

思い込みが一つ外れた。

## 問いの立て方・伝え方・可視化

問いをデザインすることでその後が違ふ、人に伝えるためには？に気づかれたようです。

問いを立てるポイントを体系的に考えられるようになりそう。

「問い」についての重要性を再認識したコト

“問い”で未来が変わる。未来が作られることもあるんだなと勉強になりました。

自分の問題意識、何をすることが明らかになりました。

自分が解決したい問いについて改めて考えることができ、深掘りできたと思う。

聞きたいことはストレートに問うのではなくひねって問う！

良い議論にするには問う方にも大きな要因がある。

問いの立て方に対する考え方、よりよい問いをするために、問いをチェックする際の視点が得られた。

自分のやりたい事を主張し、誘導する質問になっていた事に気づいた。

問いの立て方、言葉の使い方によって方向性が変わるなということを改めて感じました。

「問い」を考える際に、いかに自分が縛られた視点で物事を見ていたかに気づかされた。また、その視点を「個人／社会」「過去／未来」とズラすことで人々を巻き込める。人々の共感の得られる「問い」になるのだと思った。

人それぞれ考えた「問い」も反応も違うので、何かをするにしても表現を工夫していきたいと思いました。

内容は「タフ」でしたが、理論武装できたように思います。

よい問いは質とつながりが自分の業務の本質とも重なり自分でも可能だと感じた。

問いの組み立てで引き算をして構成を考えるところは勉強になりました。

問いは段階的に立てること。問いの立てる方法は様々であること。を学べ、問いの深さが身に沁みました。

テーマから自身や仕事にどのように活かせるか？あまりはっきりとしなかったですが、問いを追求していったり、共有することで、中心となる問いがなんであるのかを知ることが出来ました。

複雑なことを可視化する方法を学びました。

自分の頭にあるものを他人に伝えるためのやり方

自分の問いについてほかの方の意見から発見がありました。

## 他者とのつながり／意見の必要性

3人寄れば文殊の知恵？問いで変わることもあれば、つながりから得られるものも。

ますます問いが苦しくなった。が、「発信」でブラッシュアップする。という必要性もツウカンした。

コミュニティ作りにおいて、どうしても仲の良い方や気が合いそうな方で作ったり、声をかけることが多いと自分でも感じておりました。今回のお話の中で多様性という言葉がありましたので、長期的にコミュニティ作りをしていく中では、やはり、多様な考えも取り入れる必要があると思いました。

「問い」は自分一人ではにつまるので①周りの意見をきくこと②聞いてもらってフィードバックしてもらわがめっちゃ大事だと気付いた。

自分の活動に人生を捧げてもらおうと思わず、レイヤー分けをしよう。

タフな問いって秘めがちですし、なかなか人に伝える機会はないと思っていたのですが、“他者にさらすこと”って大事なんだと感じた。答えを求めすぎる日本人にはこの問いを口にするのは、結構恐怖なのかなって感じました。

他者を巻き込む上での多様な人を関わることに必要な情報発信のナレッジについて学習することが出来る。自分の作った問いの確認を定期的にした。

なんとなく「協力」って大事だよな…（いまいち明文化できない）状態から意見交換することで、新しい発見につながることを再確認。そういう場にワークショップを出来るように「問い」をプランニングすることが重要であると実感。

若い人の意見や考え方

新たに考える切り口をいただきました。

一人でできないことを考えるきっかけになりました。

それをさらすことは自分の成長につながる。

ワークショップをする事前準備、別角度でみることの大切さ、問いが一方通行になっていないか、端局的な問いばかりになってないかなど考えること、また周りとも共有して再検討することが大切だと思いました。

## イベントの集客

多様な参加者を呼び込むために工夫できることに新たに気づかれた方もいました。

イベントを行う際に、いくつかのキーワードをちりばめること